

普通救命講習Ⅰ

ケガの手当講習

理解度確認テスト

(試験時間：50分)

注意事項

1. この試験の試験時間は50分間です。途中退室後は会場に戻ることができません。
2. 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
3. 解答は必ず解答用紙に記入してください。
4. 乱丁や落丁、印刷不鮮明等がある場合は静かに手を挙げて試験監督にお知らせください。
5. この問題冊子は試験終了後に解答用紙と共に回収します。
6. このテストは神戸市消防局監修『救急車が来るまでに 市民救命士講習』(神戸市消防局発行、2016年)をベースに作成されており、表記はすべてこのテキストに統一しています。
7. このテストはJRC 蘇生ガイドライン2015を基準に作成されています。解答する際はガイドライン2015の表記で解答してください。
8. このテストは100点満点です。なお、合格点は80点とします。

問題Ⅰ【医学的な基礎知識】（20点）

下記の①～⑩に適切な言葉を答えなさい。別ページ1の表も参考にすること。

人間の心臓は①、②、③、④の計4つの部屋からなり、全身から心臓（①）へ戻る血管を⑤、心臓（②）から肺へ血液を送る血管を⑥、肺から心臓（③）へ血液を送る血管を⑦、心臓（④）から全身へ送る血管を⑧という。

また、⑤・⑧の循環を⑨、⑥・⑦の循環を⑩という。

問題Ⅱ【応急手当の重要性】（20点）

下記の①～⑩に適切な言葉を下記の語群から選び、記号で答えなさい。

1. 救命の連鎖は①、②、③（心肺蘇生とAED）、④の4つである。

心臓や呼吸が止まってしまうような重篤な傷病者を救命するには、その場に居合わせた人（バイスタンダー）が救急車をすぐに呼び、⑤（CPR）や⑥（自動体外式除細動器）を用いた⑦（除細動）等の③を行うことが必要。

2. 子どもの突然死の主な原因は⑧（外傷）、⑨、⑩などがある。

語群：a 心肺蘇生法 b ケガ c 一次救命処置 d 二次救命処置と心拍再開後の集中治療 e 溺水 f 心停止の予防 g AED h 早期認識と通報 i 窒息 j 電気ショック

問題Ⅲ【自動体外式除細動器を用いた心肺蘇生の流れ】（10点）

別ページ2の表①～⑤に適切な言葉、数値を下記の語群から選んぴ、記号で答えなさい。

語群：a 胸骨圧迫 b 呼吸の確認 c 人工呼吸 d 30 e 2

問題Ⅳ【CPRと気道異物除去の手順と感染防止のポイント】（20点）

下記の1～5の文章があていば○、間違っていれば×を答えなさい。

1. 救助者が一人の場合は心肺蘇生法を始めるよりも119番通報することと、近くにAEDがある場合は持ってきて使用することが優先される。
2. 普段通りの呼吸でなくても、呼吸があれば呼吸ありと判断する。
3. 側臥位（回復体位）は胸骨圧迫を行う時の体位である。
4. 人工呼吸は必ずしも行う必要性はない。
5. 心肺蘇生は救助者の判断で勝手に中断できる。
6. 乳児とは、1歳未満のことであり、幼児とは1歳以上概ね15歳未満のことであり。
7. 胸骨圧迫は手掌基部で行い、成人に対しては胸の厚さの3分の1、幼児・乳児に対しては5～6cm下方に1分間にちょうど100回のテンポで圧迫する。
8. 人工呼吸は頭部後屈あご先挙上法で気道の確保を行い、乳児に対しては口対口鼻人工呼吸、幼児・成人に対してはマウス・ツー・マウス人工呼吸で行う。
9. 背部叩打法を行ったときは内臓損傷を起こしていることがあるので救急隊に伝える。
10. 感染とは、応急手当を実施する際に傷病者の血液や吐物等の分泌物に救助者が接触することで様々な病気がうつることである。

問題V【自動体外式除細動器の使用手順とポイント】(10点)

下記の1～5の文章があてれば○、間違てれば×を答えなさい。

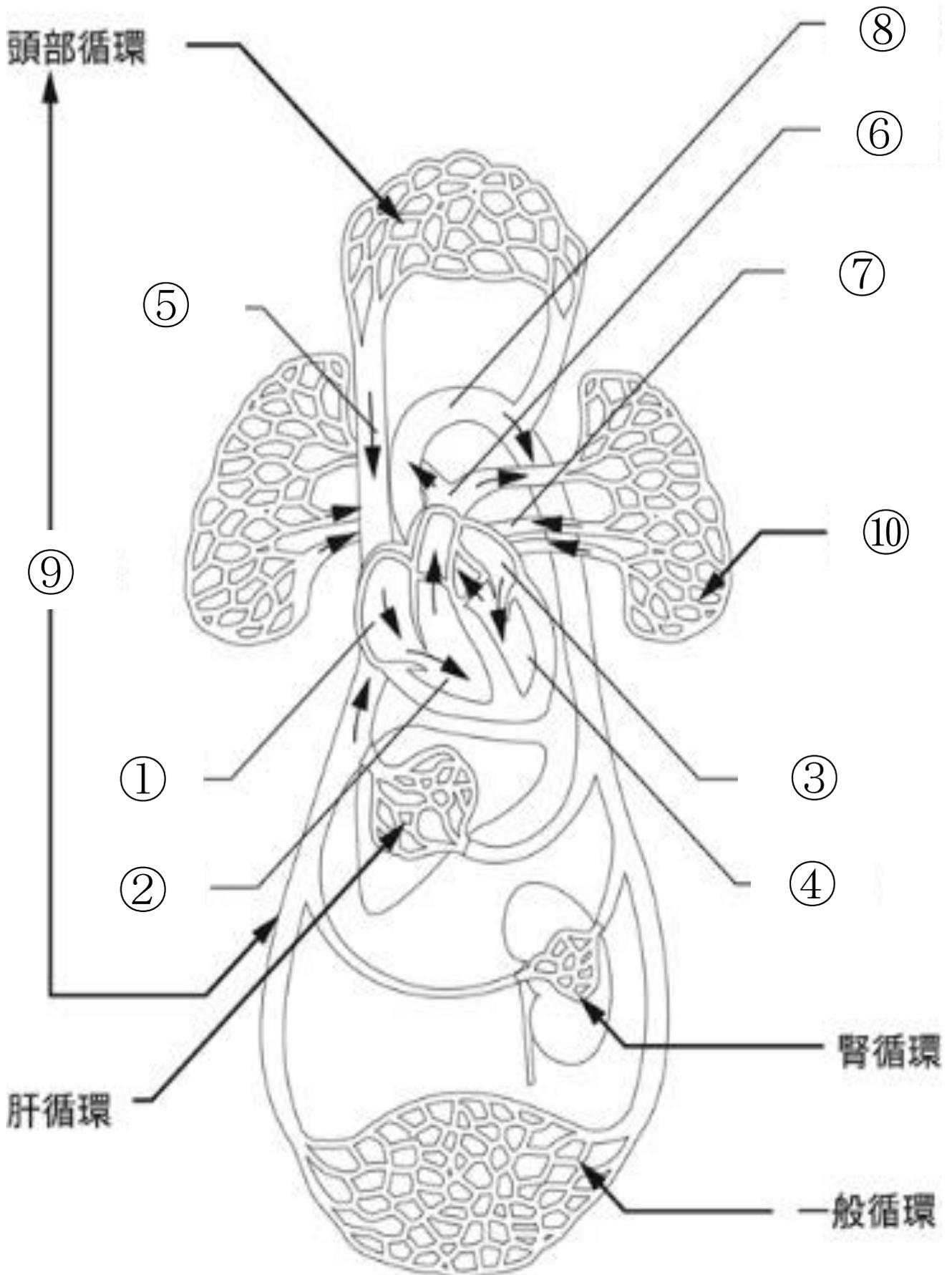
1. 未就学児(概ね6歳まで)に対しては、小児用パッドや小児用モードで行う。
2. 成人に対して小児用パッドを使ってもよい。
3. 胸骨圧迫の中断時間はなるべく少なくする。
4. 傷病者の胸が汗や水分で濡れている場合や胸に貼り薬がある場合はその上から貼ってもよい。
5. 心臓ペースメーカーや埋め込み式除細動器埋め込まれている場合はそれをよけて貼る。

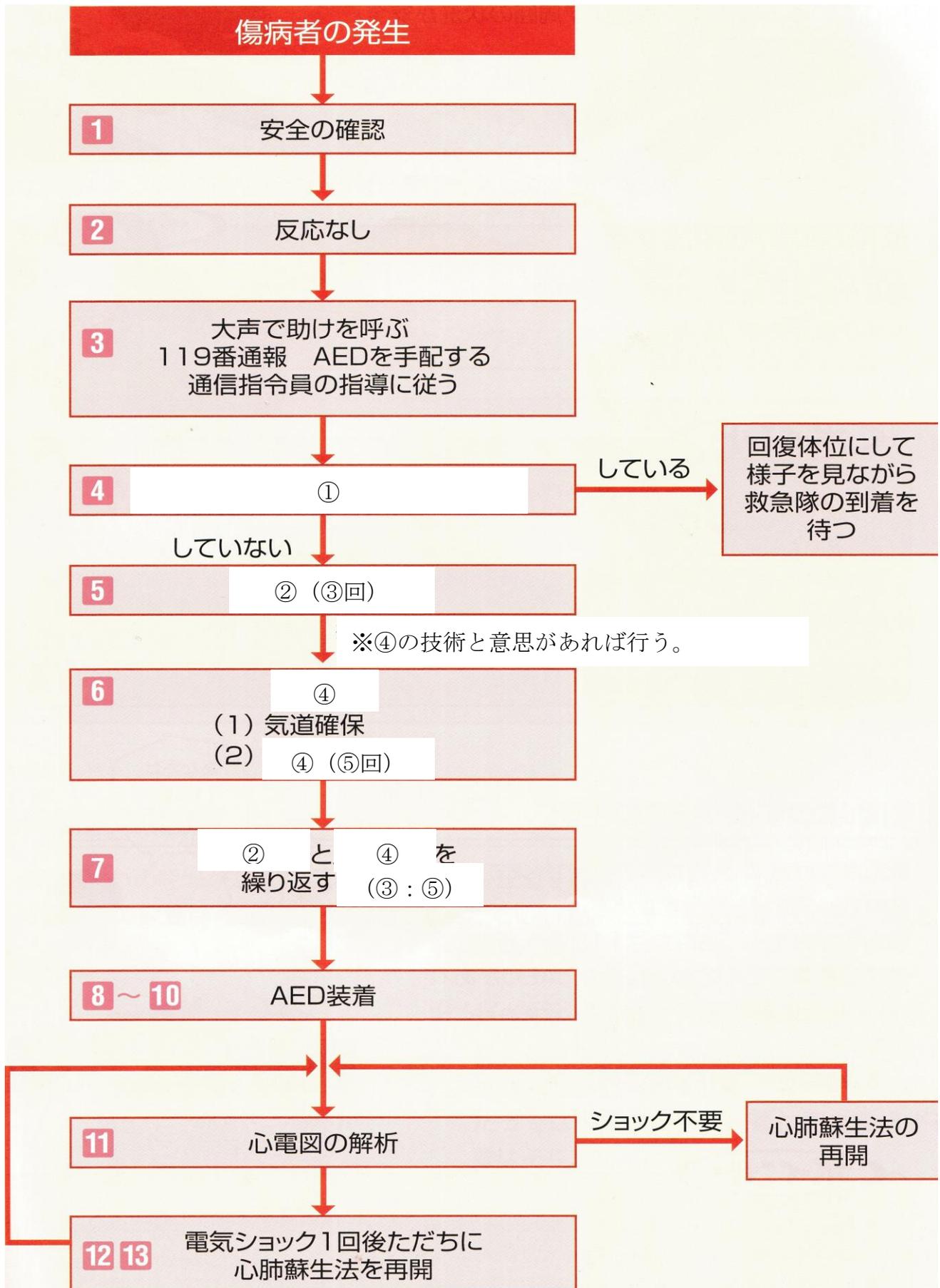
問題VI【けがの手当て】(20点)

下記の1～10の文章があてれば○、間違てれば×を答えなさい。

1. きずには、出血、痛み、細菌感染の危険性がある。
2. 一般に、人の全血液量は、成人では体重の約1/3といわれ、その31%が急速に失われると、生命に危険を及ぼす。
3. 止血法は直接圧迫止血法しかない。
4. 骨折の手当の時にを行う固定は損傷部を保護し、痛みをやわらげ、悪化を防ぐために行う。
5. 捻挫をしたときはまず冷却を行う。
6. 骨折したところを確認するために、痛がっているところを動かしても構わない。
7. 激しい痛み、変形が認められたら、骨折と判断する。
8. 骨折の疑いがあるときは、骨折でないと判断して処置しないでよい。
9. そのままの状態で傷病者が苦しむように固定する。
10. 骨がきず口から外に出ているときは、その骨をもとに戻さないで、きず口を清潔なガーゼ等で保護して、きずに触れないように固定する。

問題はこれで終わりです。





普通救命講習Ⅰ・ケガの手当講習 理解度確認テスト 解答用紙

<試験時間：50分>

問題Ⅰ（20点）

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩		

問題Ⅱ（20点）

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

問題Ⅲ（10点）

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

問題Ⅳ（20点）

1.	2.	3.	4.	5.
6.	7.	8.	9.	10.

問題Ⅴ（10点）

1.	2.	3.	4.	5.
----	----	----	----	----

問題Ⅵ（20点）

1.	2.	3.	4.	5.
6.	7.	8.	9.	10.

一言

--

中学 高校 年 組氏名	点	合・否
----------------	---	-----

<試験時間：50分>

問題Ⅰ（20点）

① 右心房	② 右心室	③ 左心房	④ 左心室
⑤ 大静脈	⑥ 肺動脈	⑦ 肺静脈	⑧ 大動脈
⑨ 体循環	⑩ 肺循環		

問題Ⅱ（20点）

① f	② h	③ c	④ d	⑤ a
⑥ g	⑦ j	⑧ b	⑨ e	⑩ i

問題Ⅲ（10点）

① b	② a	③ d	④ c	⑤ e
-----	-----	-----	-----	-----

問題Ⅳ（20点）

1. ○	2. ×	3. ×	4. ○	5. ×
6. ○	7. ×	8. ○	9. ×	10. ○

問題Ⅴ（10点）

1. ○	2. ×	3. ○	4. ×	5. ○
------	------	------	------	------

問題Ⅵ（20点）

1. ○	2. ○	3. ×	4. ○	5. ○
6. ×	7. ○	8. ×	9. ×	10. ○

一言

(自由記述)

中学 高校 年 組氏名	点	合・否
----------------	---	-----